



2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年10月31日
NECネットエスアイ株式会社
(銘柄略称: NESIC 銘柄コード: 1973)
執行役員社長 和田 雅夫

- I. 上期実績概要**
- II. 通期業績見通し**
- III. 中期経営計画の進捗状況**

I . 上期実績概要

全指標で期初予想を上回り、増収・増益を継続

(単位:億円)

	12/3期 上期実績	13/3期 上期実績	14/3期 上期実績	前年 同期差/比	予想との 差異
受注高	1,074	1,240	1,386	+12%	—
売上高	908	1,045	1,152	+10%	+72
営業利益 (営業利益率)	24 (2.6%)	35 (3.3%)	42 (3.6%)	+7 +0.3pt	+5 +0.2pt
四半期純利益 (四半期純利益率)	14 (1.6%)	22 (2.1%)	28 (2.4%)	+6 +0.3pt	+6 +0.3pt
フリー・キャッシュ・フロー	203	44	146	+102	

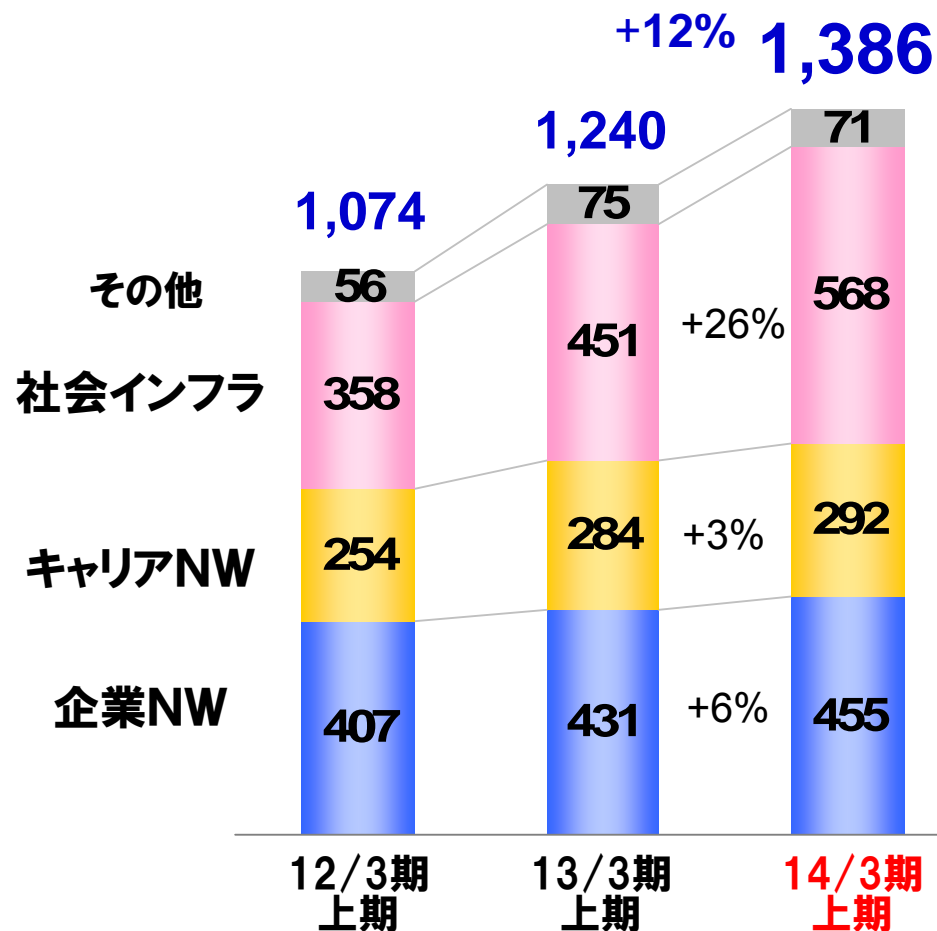
2014年3月期 上期 セグメント別受注高／売上高

注力分野が拡大し、受注・売上2桁成長

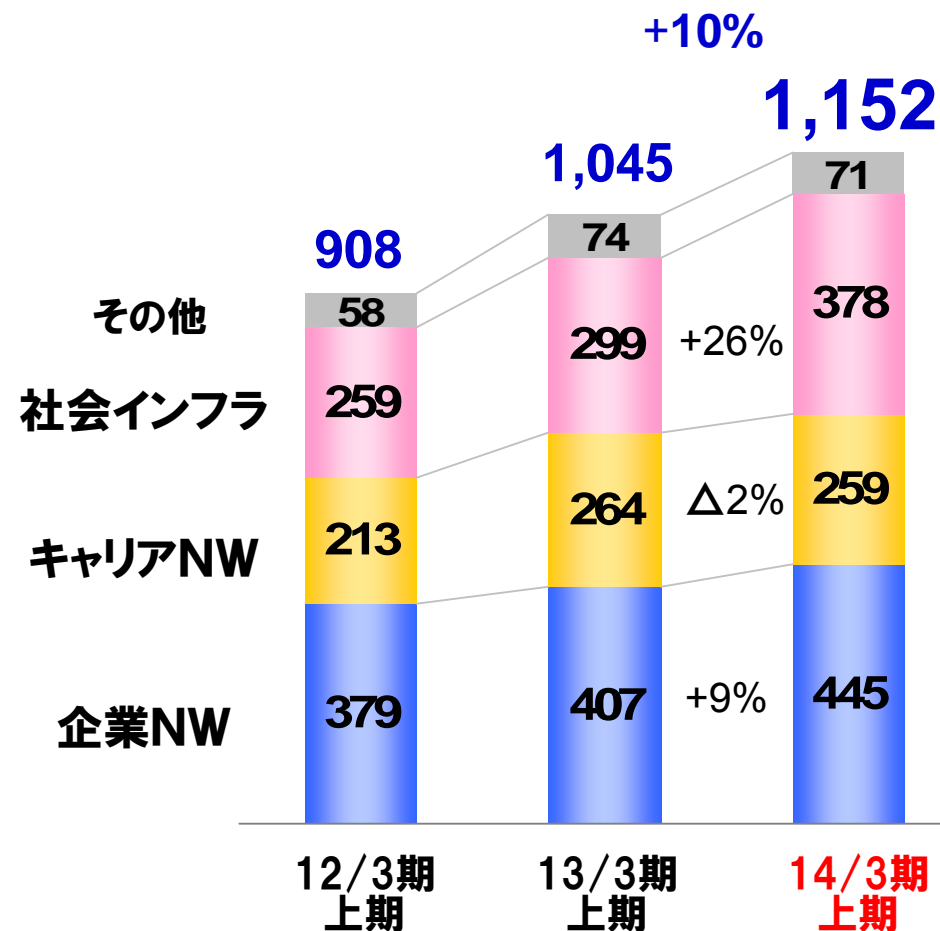
～消防・防災システム、移動体基地局、コンタクトセンター等

(単位:億円)

受注高

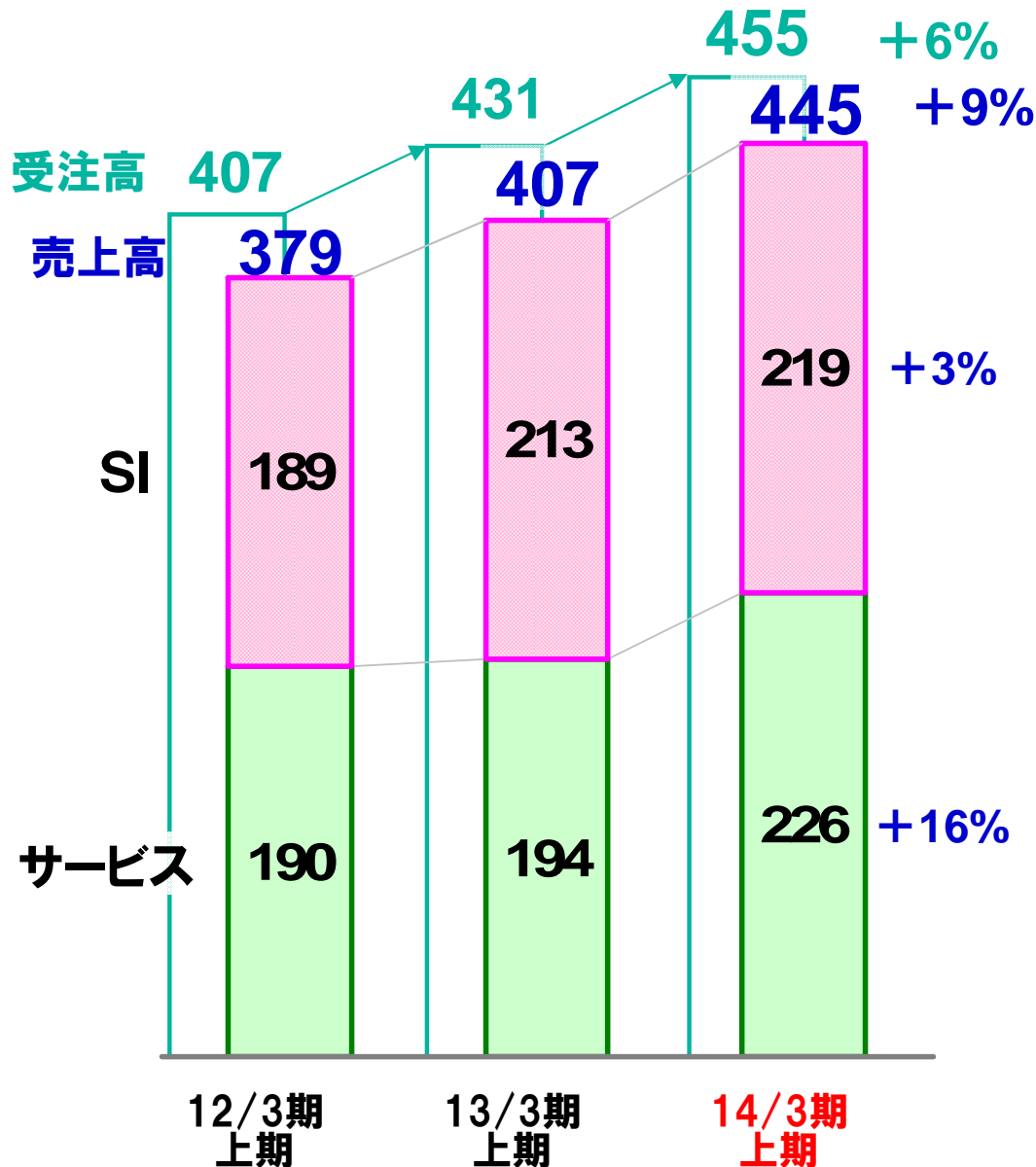


売上高



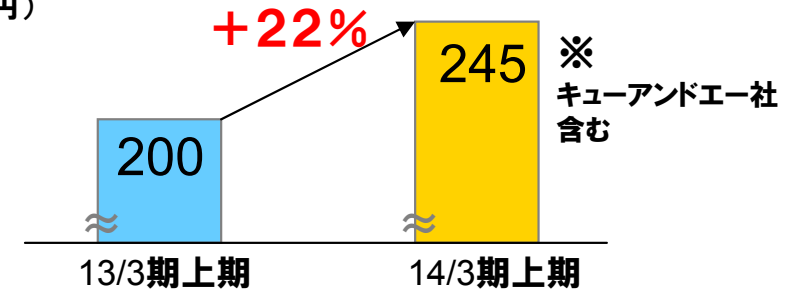
2014年3月期 上期 企業ネットワーク事業

(単位:億円)



成長投資の効果により、EmpoweredOffice事業を軸に拡大基調を継続

EmpoweredOffice事業 売上高
(単位:億円)

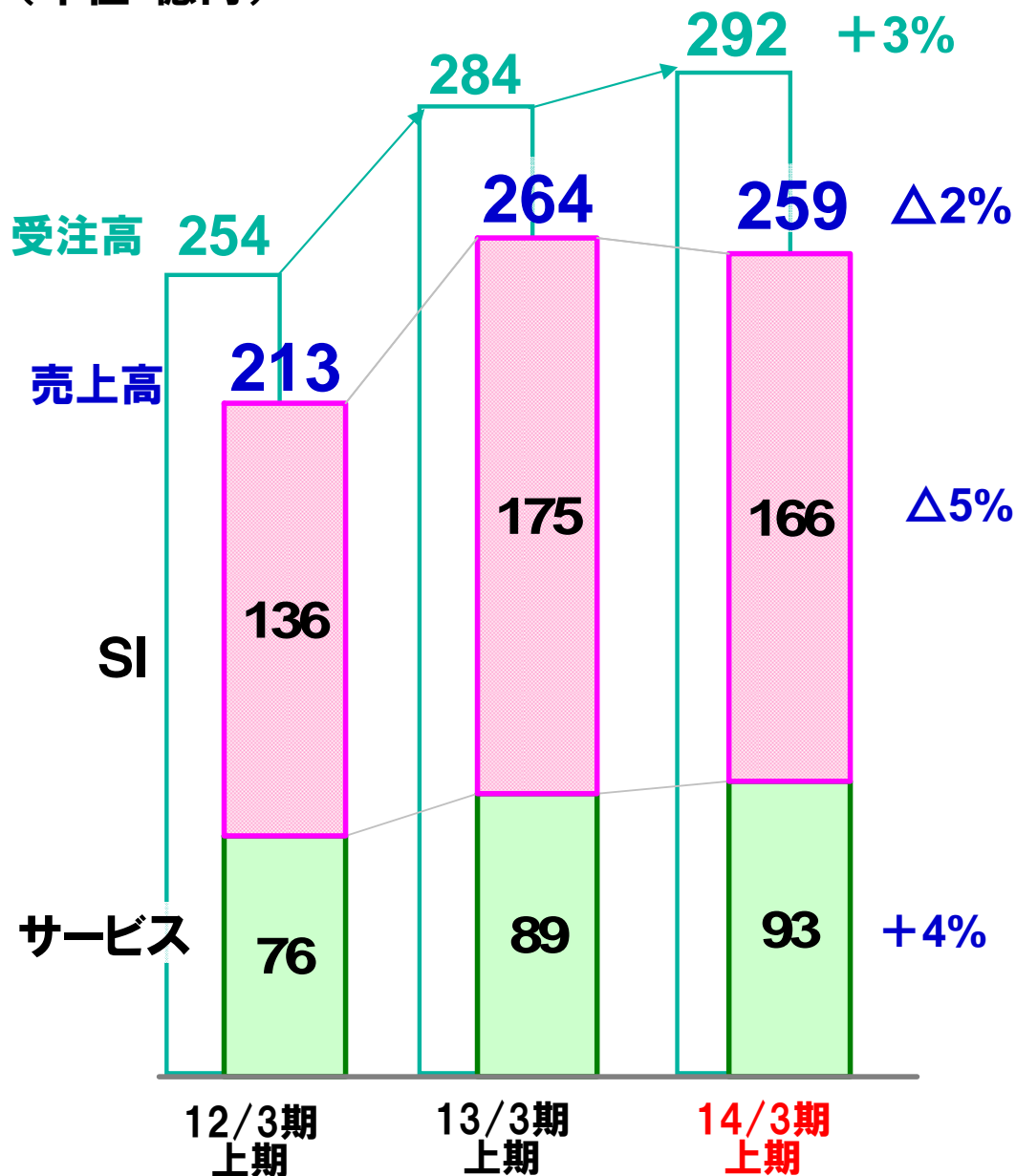


- 継続するオフィス移転需要に対応
- キューアンドエー(株)の連結化によりサービス事業領域を拡大
 - ・コンタクトセンターを活用したマーケティング支援
 - ・個人向けテクニカルサポート

※売上高インパクト:約30億円

2014年3月期 上期 キャリアネットワーク事業

(単位:億円)



前年度大型案件の影響 あるも受注増、売上は微減

- **テクニカルアウトソーシング事業は堅調**
 - ・サービス分野が徐々に拡大
通信事業者の上流工程への拡大
海外ベンダーの品質管理業務
 - ・通信事業者向け保守が受注拡大

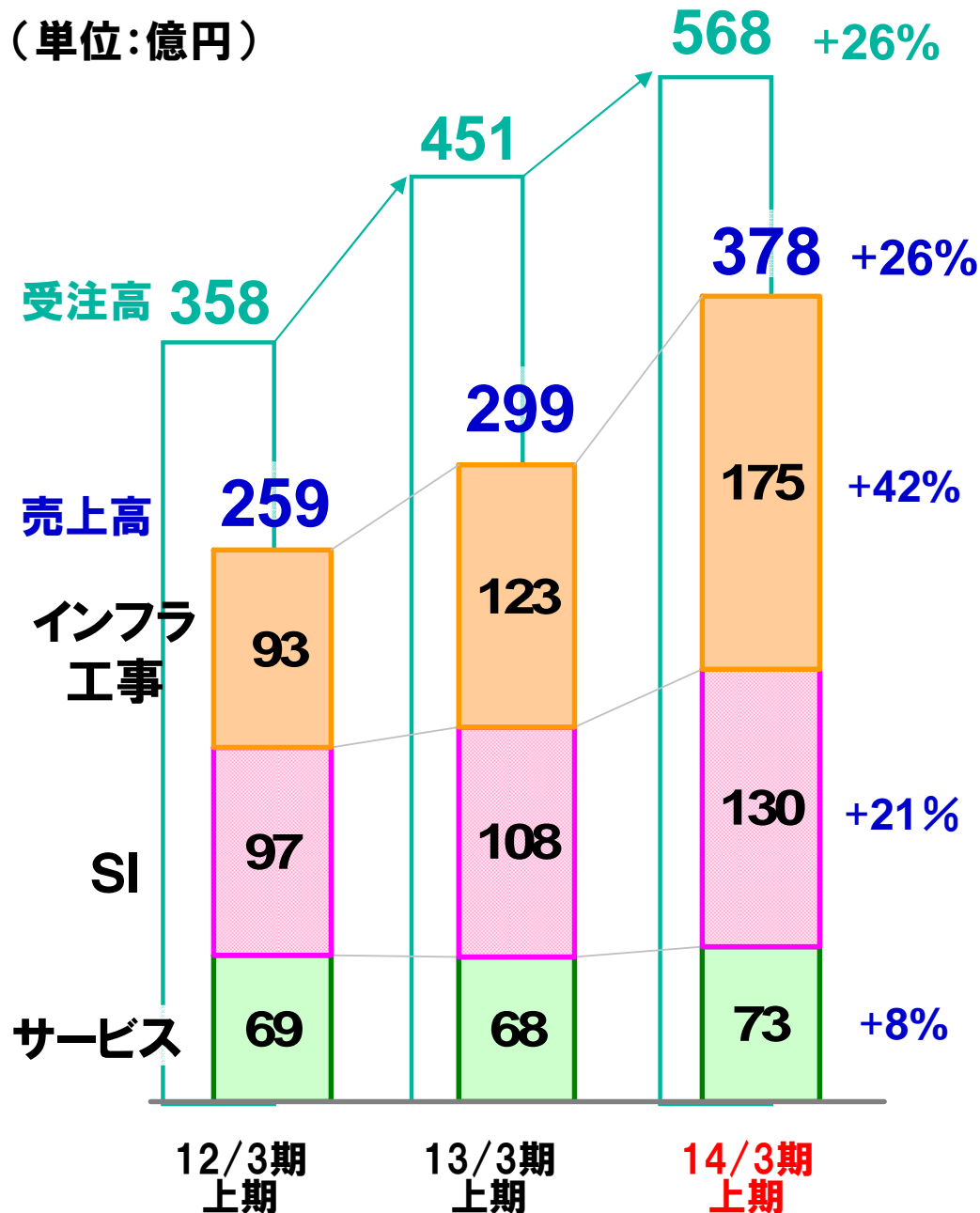
- **移動体基地局SI・サービス事業のM&Aが業績寄与**
(旧NECモバイルリングの一部事業承継)

※売上高インパクト:約30億円

- ・基地局に係わる工事事業については社会インフラ事業(次ページ)に含まれる

2014年3月期 上期 社会インフラ事業

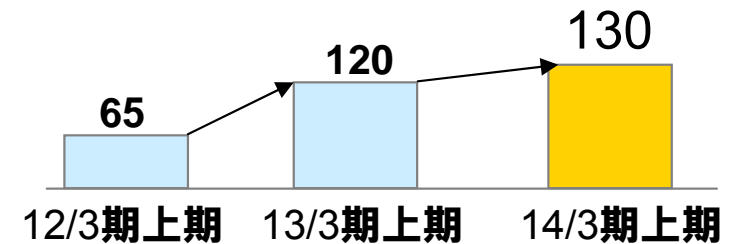
(単位:億円)



受注・売上とも大きく伸張

- プラチナバンド基地局工事が売上拡大
 - ・前下期～今上期に売上集中
- 公共投資の前倒しに積極対応 (安心・安全をテーマとしたPJ拡大)
- 消防・防災システム事業

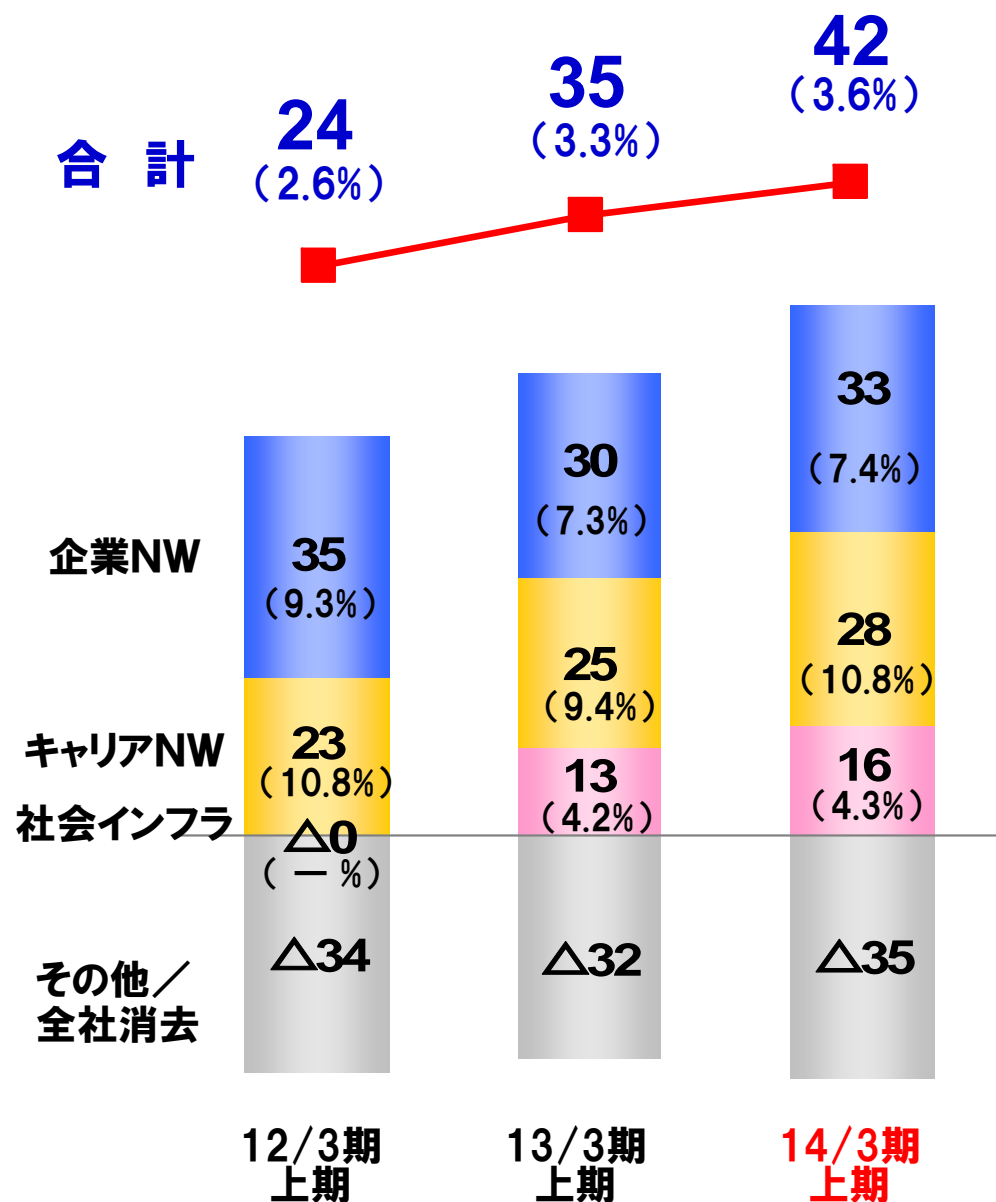
(単位:億円) 消防・防災 受注実績



- 災害時に有効な衛星通信網整備等
- 海外インフラ事業に成果
 - ・タイ国3G通信網工事を受注

2014年3月期 上期 セグメント別営業損益

(単位:億円)

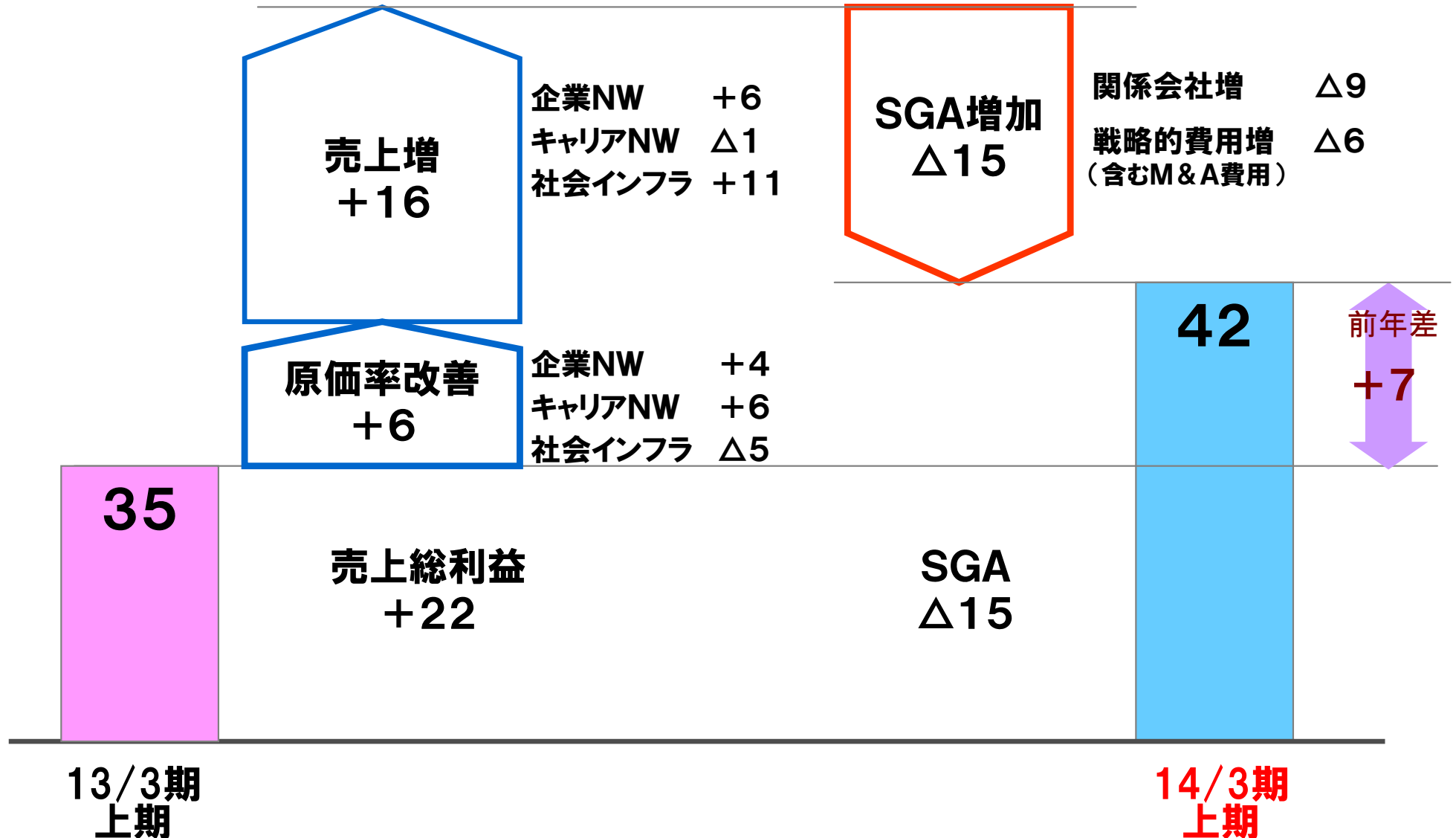


各セグメントが着実に増益

- **企業ネットワーク**
・売上増および内製化などの効率化の推進等により増益
- **キャリアネットワーク**
・M&A効果および内製化などの効率化により増益
- **社会インフラ**
・売上増により増益
- **その他/全社消去**
・M&A関連やオフィス改革などの戦略的費用が増加

2014年3月期 上期 営業損益 増減要因

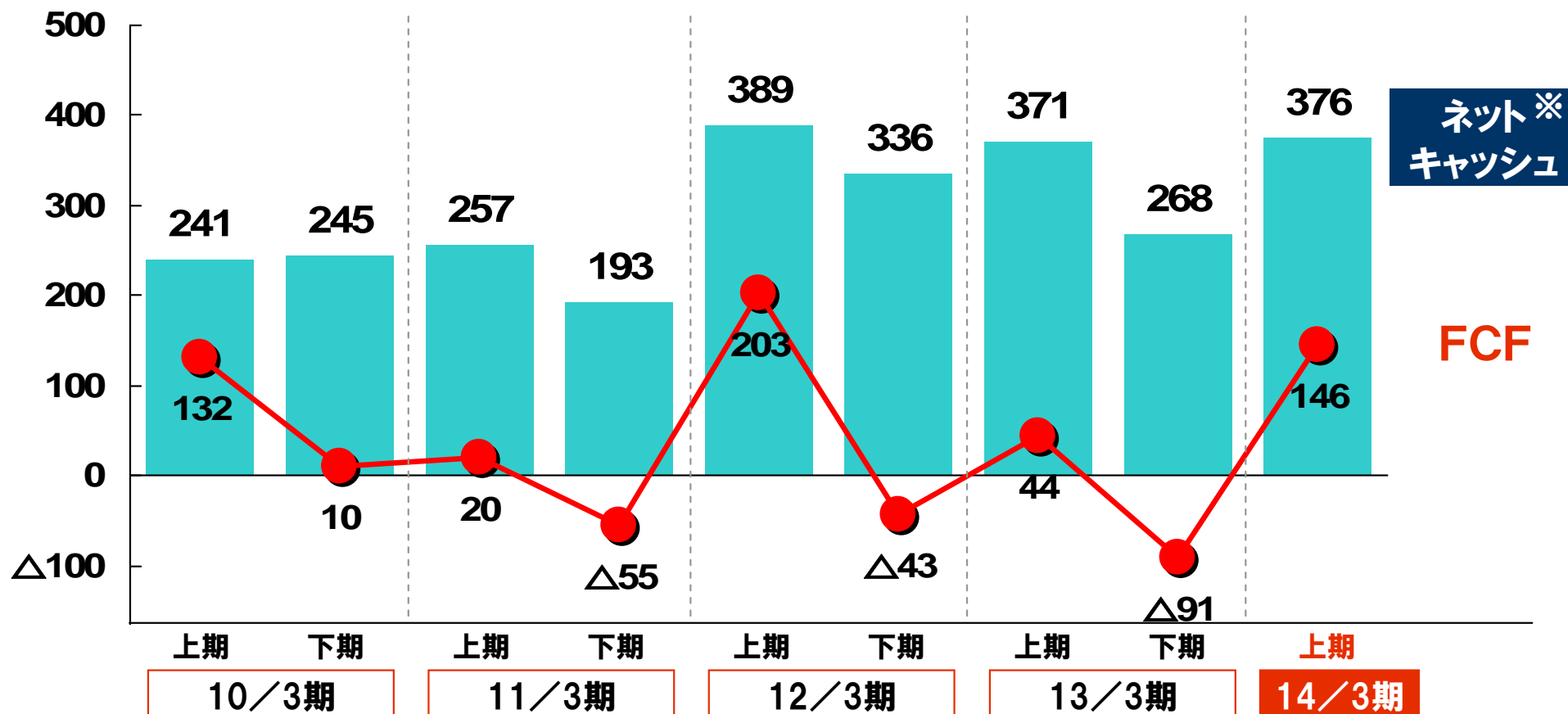
(単位:億円)



2014年3月期 上期 キャッシュフロー

前年度末売上の大型プロジェクトの回収により、
上期収支は大幅プラス

(単位:億円)



※ネットキャッシュ=現金および現金同等物-借入金

2014年3月期 上期(13年9月末) バランスシート

(単位:億円)

		13年9月末	13年3月末	増 減
	現金及び現金同等物	445	309	135
	受取手形及び売掛金	715	930	△215
	たな卸資産	110	104	6
	その他流動資産	83	81	2
流動資産合計		1,353	1,425	△72
固定資産合計		301	258	43
資産合計		1,654	1,683	△29
	買入債務	289	364	△75
	借入金	68	41	27
	その他負債	404	410	△6
負債合計		761	815	△54
	株主資本合計	880	865	15
	その他の包括利益累計額	△3	△5	2
	少数株主持分	15	7	8
純資産合計		893	868	25
負債純資産合計		1,654	1,683	△29
自己資本比率		53.1%	51.2%	+1.9pt

II. 通期業績見通し

金融緩和および景気対策等により事業環境は全般に回復傾向

● 企業ネットワーク

- ・景況感は底打ちから回復基調へ変化も、景気回復による企業の設備投資、ICT投資への波及はこれから。

● キャリアネットワーク

- ・通信事業者の設備投資は高水準ながらも先行き不透明。海外ベンダーを活用した設備投資削減ニーズは拡大。

● 社会インフラ

- ・公共投資拡大により市場が活性化。
ICT分野では、安心・安全をテーマとしたインフラ整備が加速。
- ・プラチナバンド基地局設置はピークアウト。

2014年3月期 通期業績予想

■ 事業環境の変化やNECマグナスコミュニケーションズ社
連結会社化などを鑑み、通期業績予想を上方修正

(単位:億円)

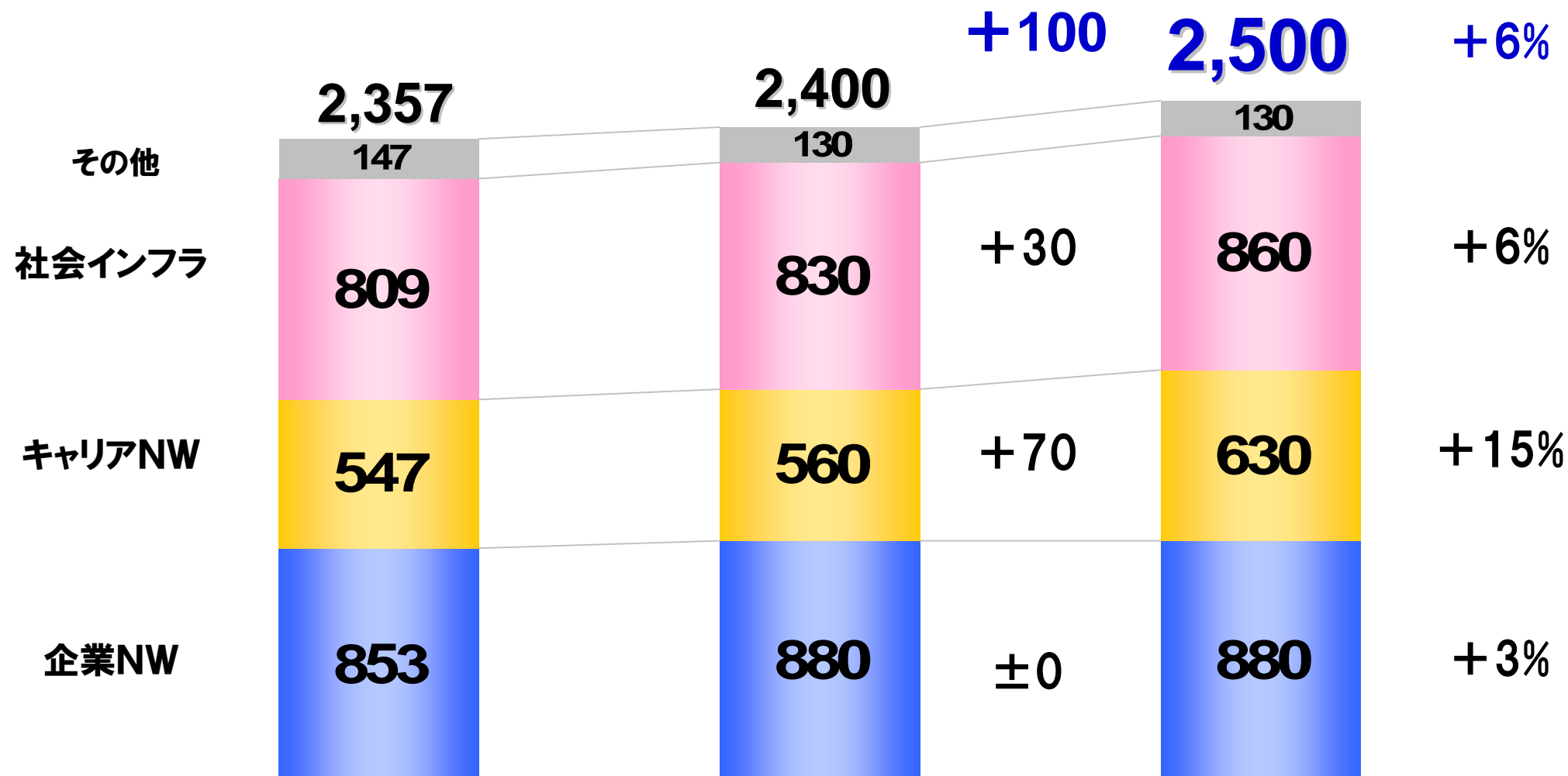
	13/3期 実績	14/3期 予想値	前年 同期比/差	期初予想	期初予想差
売上高	2,357	2,500	+6%	2,400	+100
営業利益 (営業利益率)	125 (5.3%)	135 (5.4%)	+10 +0.1pt	130 (5.4%)	+5 +0.0pt
当期純利益 (当期純利益率)	75 (3.2%)	82 (3.3%)	+7 +0.1pt	78 (3.3%)	+4 +0.0pt

※予想値は2013年10月30日現在のものです。

2014年3月期 通期業績予想(セグメント別売上高)

(単位:億円)

(前年伸率)



13/3期通期実績

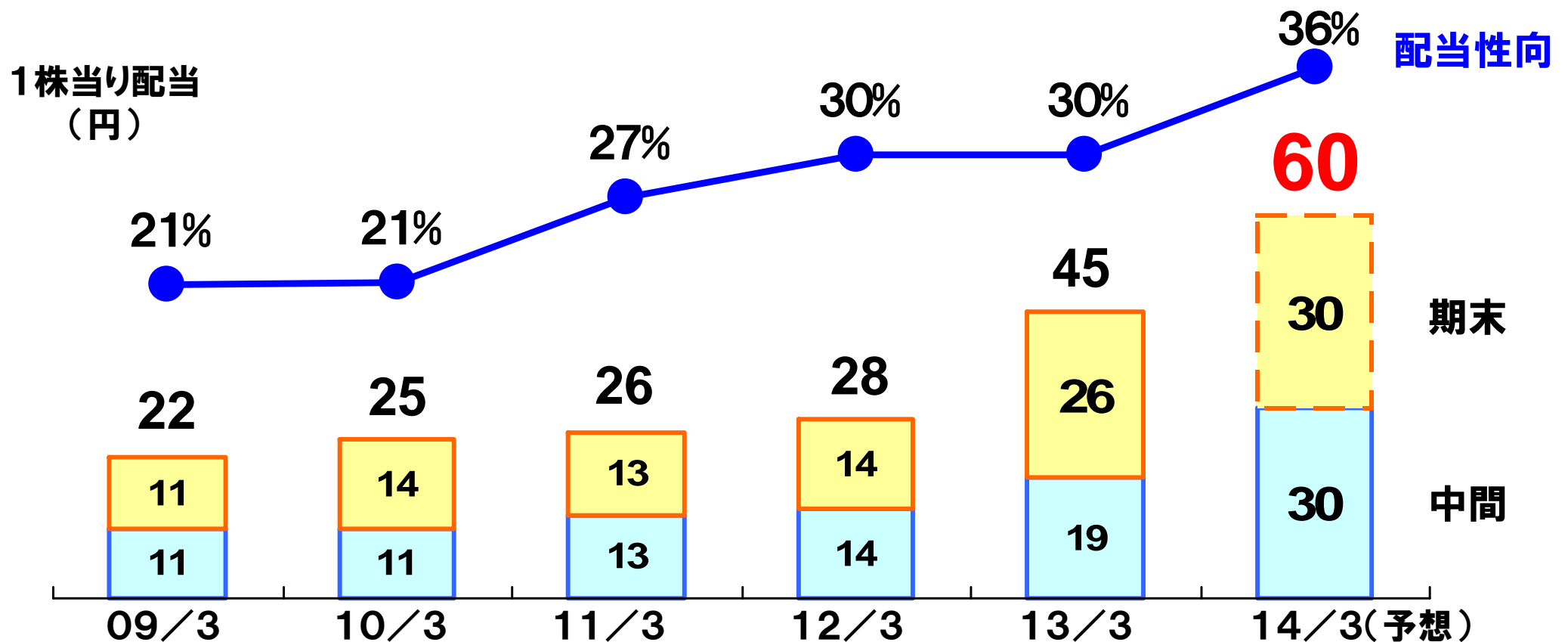
14/3期通期期初予想
(4月26日)

14/3期通期今回予想

※予想値は2013年10月30日現在のものです。

■ 期初計画通り、30円の間配当を実施

- 期末配当計画も変更なし



III. 中期経営計画の進捗状況

サービス事業に構造を変えつつ、
売上高成長、収益性の改善を図る

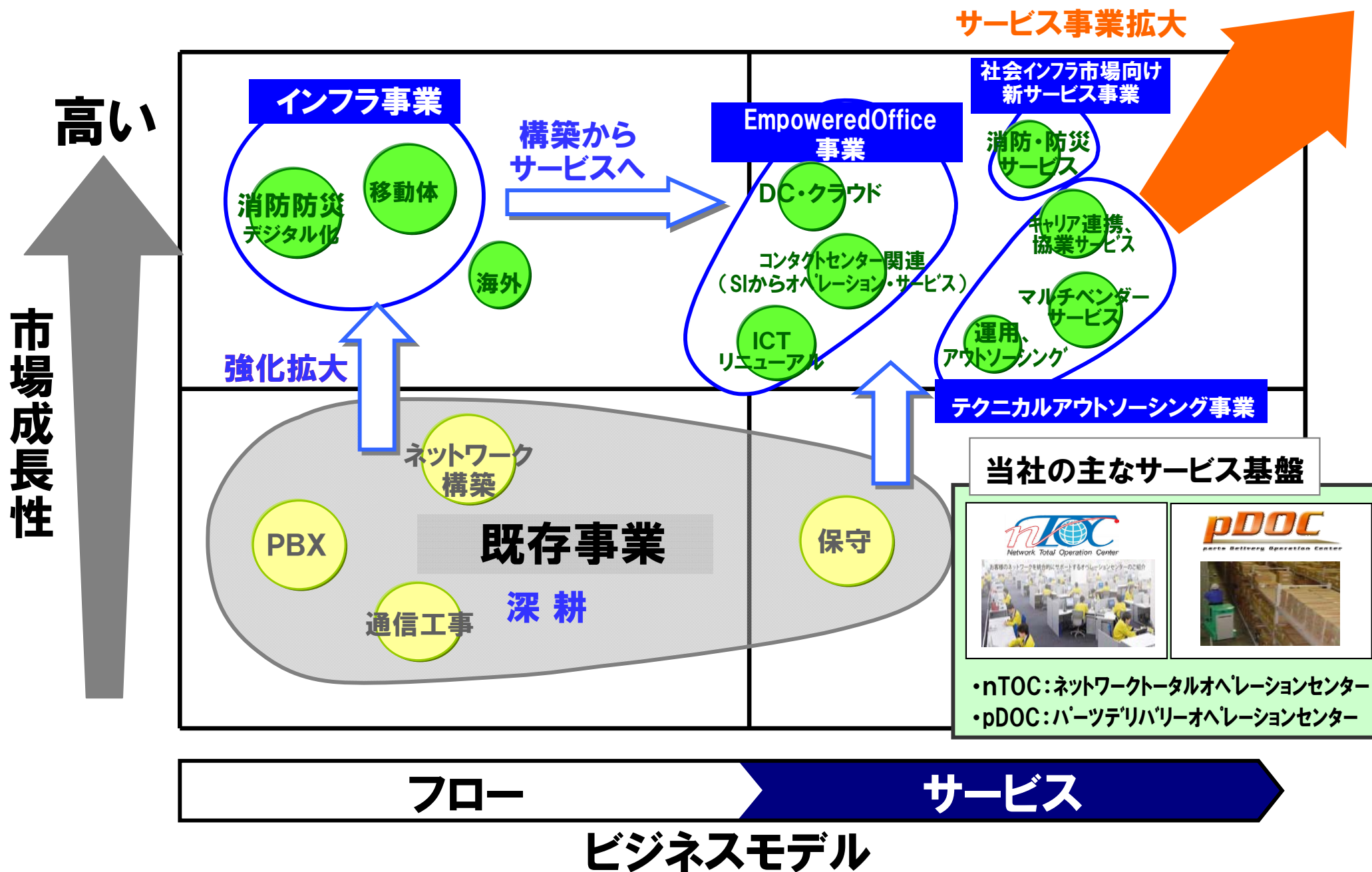
- 売上高 2600億円以上
- 営業利益率 6%以上
- ROE 10%以上

上場企業として株主価値を向上

(※目標値は、2013年5月9日現在)

重点事業領域(戦略マップ)

再掲

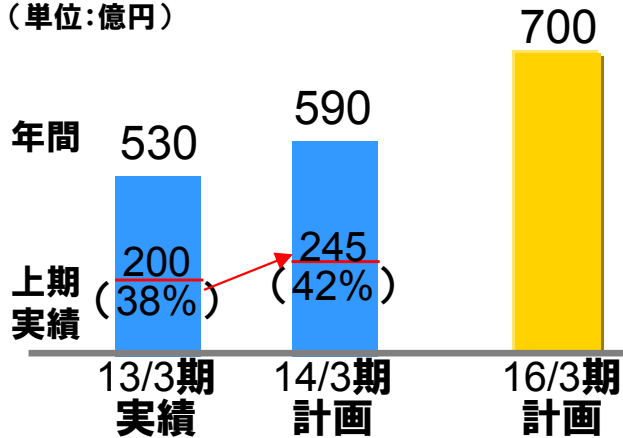


EmpoweredOffice事業

中計策定時

売上目標／実績

(単位:億円)



()内は、通期に対する上期進捗率を示す

戦略

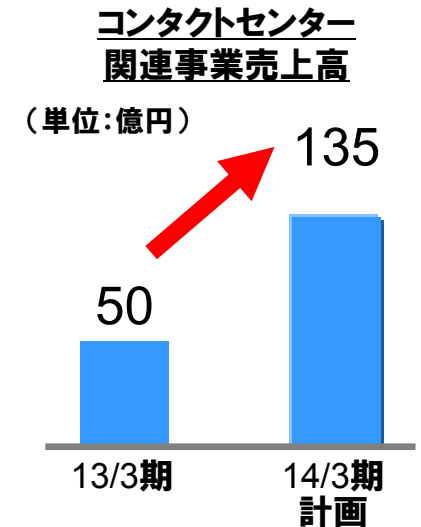
- **マーケット拡大**
 - ・地方・公共・海外へのEO展開
 - ・オフィス市場深耕
→デベロッパ・ゼネコン等
- **サービス事業拡大**
 - ・共通基盤連携強化
 - ・QAC連携での付加価値提供サービスの拡大

上期の成果

● サービス事業拡大に向けた取組み

- ・ **コンタクトセンター事業強化**
に向けたキューアンドエー(株)※
(QAC)を連結会社化

※前年度売上高:約100億円



● 地方、公共へのEmpoweredOffice展開

- ・中国支店、中部支店が、
日経ニューオフィス賞を受賞

※09年、11年に続いて、3回目の受賞



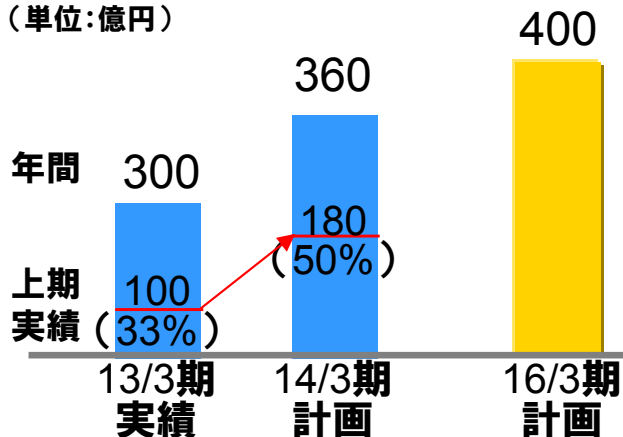
中部支店

インフラ事業

中計策定時

売上目標／実績

(単位:億円)



()内は、通期に対する上期進捗率を示す

戦略

(移動体事業)

- 基地局事業の受注拡大
(エリア拡大と既存エリア内でのシェア拡大)
- 局単価下落の中での
原価改革

(消防・防災事業)

- 消防防災事業での
シェア拡大

上期の成果

● 消防・防災システム事業

- ・リソース逼迫もプロジェクト管理能力を強化し、着実にPJを遂行
- ・社会インフラ市場向け新サービス立上げ
⇒ 消防・救急向け多言語サービス

主な受注実績



● 移動体基地局事業の統合シナジー

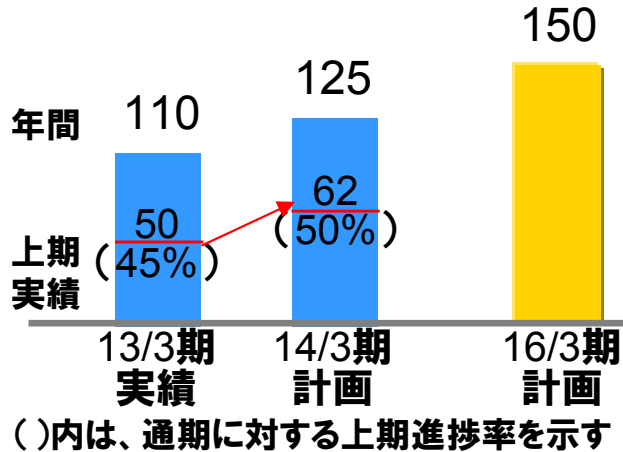
- ・設計コンサル・工事から始まり、保守・サービス領域まで一気通貫体制を活かした受注活動

➡ 引合い増加中、一部受注実績もあり

海外事業

売上目標／実績

(単位:億円)



戦略

- 中国、タイ、フィリピンを中心としたJOCへの対応強化
- サウジアラビア、タイを中心とした既存インフラ事業の拡大

上期の成果

● 既存インフラ事業の拡大

■ タイ大手通信事業者AIS様向け3G通信網構築PJの受注獲得

- 3G通信網に係わる光ケーブル敷設(架線/接続)工事
※総延長26,000Km (将来計画含む)



- 受注規模(上期) : 約25億円

➡ 今後、他社担当予定地区への進攻を図り、更なる受注拡大を目指す

● ODA案件への積極的な対応

- ミャンマーにおける空港整備事業を日本企業連合の一社として受注

中期成長の加速に向けて

～NECマグナスコミュニケーションズの連結会社化

事業内容: 通信機器、電子機器等の企画開発、販売、SE
ならびにCATV施設の建設、運営、コンサル等

NECマグナス

- ◆ 高シェア製品の開発力
- ◆ 独自のネットワーク技術力
& セキュリティ技術力
- ◆ 豊富なケーブルTV会社向け
事業実績

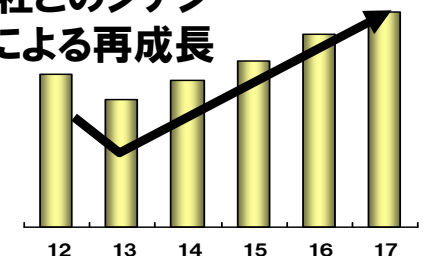
NECネットエスアイ

- ◆ 幅広い顧客基盤・サービス基盤
- ◆ システム構築等の情報通信
技術力、保守サポート力
- ◆ 働き方改革等の
お客様課題 解決力

- ・ 社会インフラ市場向けサービスの創造・拡大
- ・ NECマグナスの商品技術力を活かしたサービスの提供
- ・ スケールメリットを追求し、為替リスクを軽減

トップライン拡大に向け、更なる事業シナジーの
深耕を行い、企業価値向上を目指す

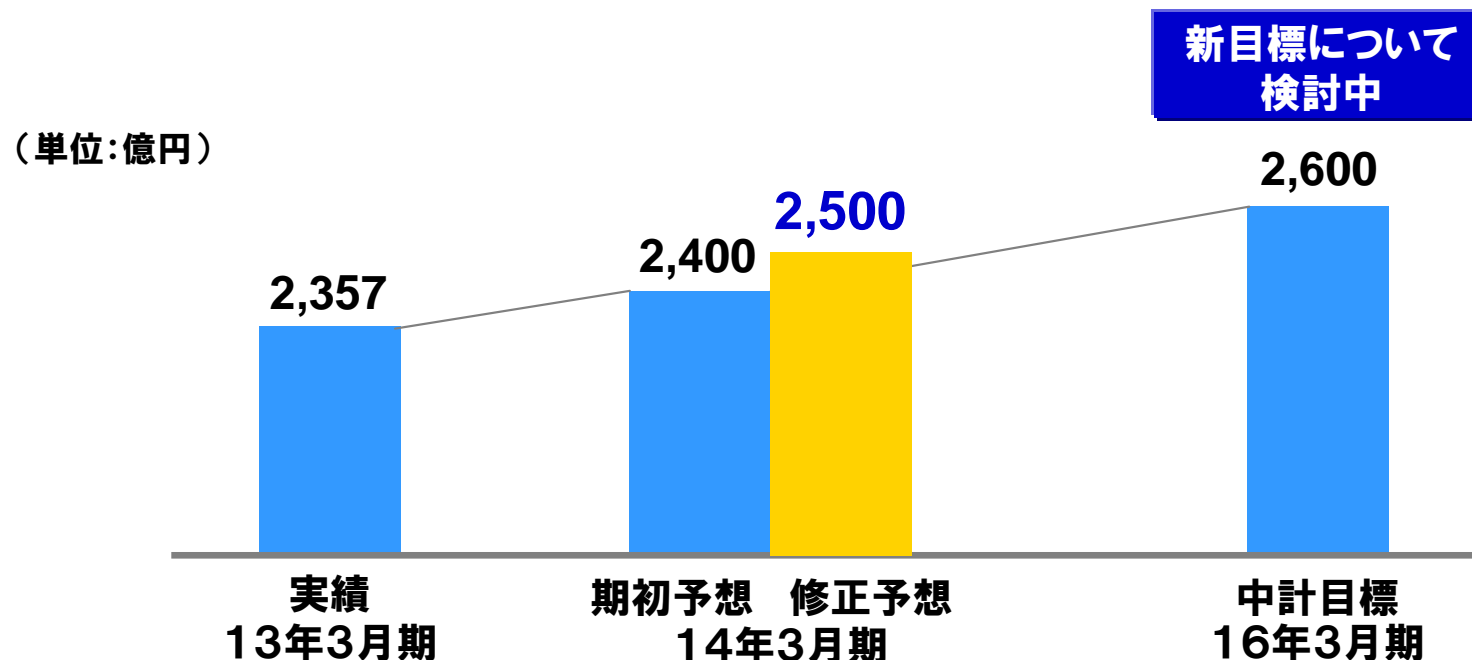
当社とのシナジー
による再成長



中期経営目標値について

■ 中期目標については、NECマグナスの子会社化などを反映し、新たな目標設定を検討中です。

■ 具体的な目標数値については、子会社化による事業統合効果などを見極めた上、通期決算説明会にてご説明申し上げます。



2013年 創立60周年 上方修正予想を達成し、 中期成長を加速

事業の成長

組織の成長

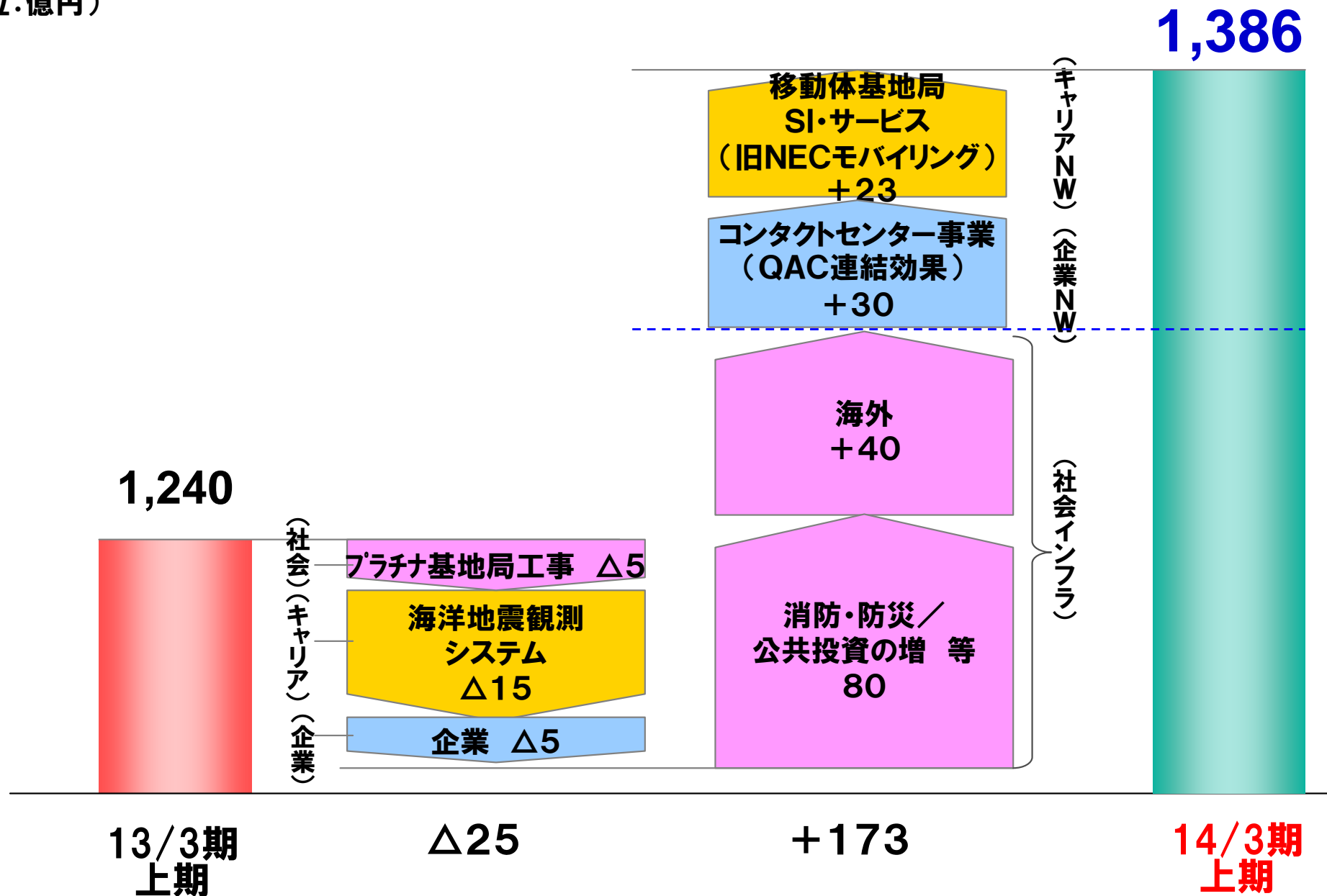
人の成長

株主価値向上

(参考資料)

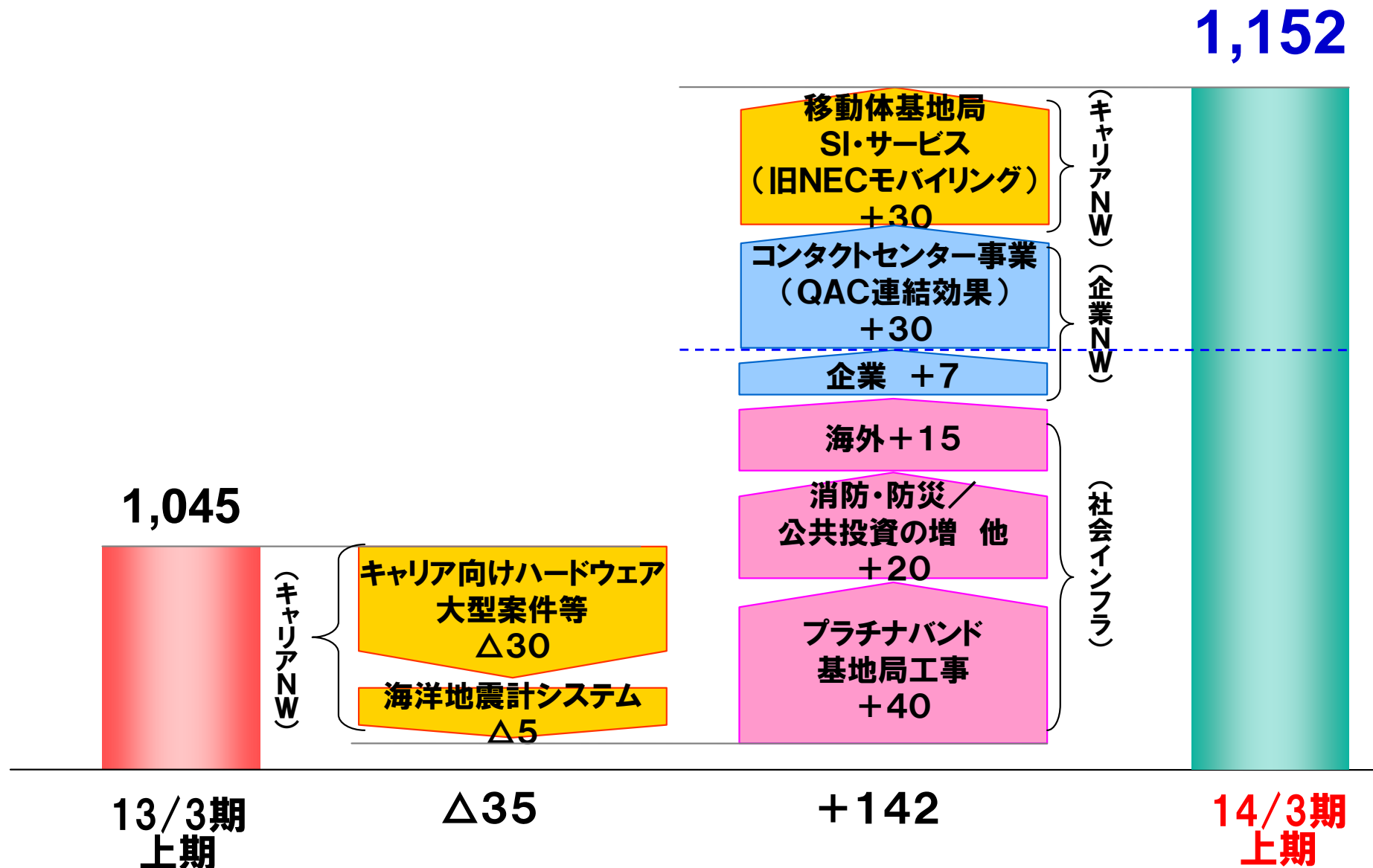
2014年3月期 上期 前年同期差異要因(受注高)

(単位:億円)



2014年3月期 上期 前年同期差異要因(売上高)

(単位:億円)



明日のコミュニケーションをデザインする

nesic

検索



本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の業績等に関する見通しは、将来の予測であり、確定的な事実に基づかないために、リスクや不確定要因を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により記載の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき願います。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、当社グループの事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供するシステムやサービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、市場対応能力などであり、

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定するものではありません。

NEC

NEC ネットワークエスアイ株式会社
NEC Networks & System Integration Corporation

www.nesic.co.jp